

令和5年度 学校経営計画

東京都立晴海総合高等学校
校長 仁井田 孝春

1 目指す学校

人間尊重の精神を基盤にして、次の学校像を目指す。

- ☆個性的で創造性や国際性に富む感性豊かな人間を育てる学校。
- ☆特定の分野について優れた能力や意欲をもつ生徒を伸ばす学校。
- ☆生徒が充実感・満足感・達成感を実感できる学校。

2 中期的目標とその達成に向けた方策

総合学科の教育活動を基盤とした本校独自の学校づくりを推進して、都民の信頼と期待に応え、中学生・保護者等に選ばれる学校づくりを実現する。

学校グランドデザイン及びスクールミッションを実践するとともに、社会に開かれた教育課程を実現し、カリキュラム・マネジメントにより、教育課程を編成・実施・評価・改善する。

本校独特のキャリア教育、生徒自ら時間割を組み立てる学習システム、理数教育重点校、進路指導研究校、海外学校間交流推進校等の指定により、学校の充実・発展を図るとともに、それらの教育の成果を発信してパイロットスクールとしての役割を果たしていく。

(1) 学ぶ意欲を高める

- ・生徒による授業評価及び学校評価等より、授業の満足度、進路指導の充実度、進路相談の利用度の調査・分析を行い、学習指導要領に即した授業の実施と全校的な相談活動体制の構築を図る。
- ・外部の教育力も活用しながら、生徒に「学び方」を習得させ、生涯にわたり学び考え続ける力を育成する。
- ・学校行事や生徒会活動・部活動・資格・検定・大会参加を通して、達成感や充実感を積み上げることにより、自信を持って主体的・能動的に学ぶ態度と、学校、学級、所属団体等への帰属意識を育てる。

(2) 自己責任能力を高める

- ・ノーチャイム・ノー放送による時間厳守や的確な行動力を身に付けさせる。
- ・ルールを遵守し、マナー・モラル・エチケットを高める姿勢・態度を育て、基本的な生活習慣を確立するとともに、生活規律を一層向上する。
- ・自らの責任のもとで科目選択をしたことの意義を理解し、使命を自覚し最後まで履修・修得を達成する学習への強い意思を育てる。豊かなキャリア形成のためにも、履修・修得単位満了を目指す。

(3) 個性と創造性を伸長する

- ・2・3年次における「課題研究」の探究活動としての学習を通して、研究の方法を学び、論理的に考えを表現できる生徒を育成する。
- ・主体的・対話的で深い学びを追究し授業の構成や指導法を見直し、研究の視点や方向性を活かした指導体制を整える。

(4) 総合学科の特色を広範に情報発信する

- ・東京都の総合学科10校と連携し、総合学科を希望する中学生数の増加を図る。
- ・卒業生の優秀な実績・成果を積極的に大学、中学校、学習塾等、都民に広く情報発信する。
- ・学校説明会、学校見学会、授業公開、体験授業、部活動体験、中学校・塾訪問、在校生の母校訪問、ホームページの更新等、多様な広報活動に積極的に取り組み、本校の恵まれた施設・設備や特色ある教育活動の周知に努める。

(5) 人材育成と職場環境の整備

- ・校内外の研修会及び自己研鑽とOJT活動で人材育成を推進する。
- ・交通事故、個人情報流失、ハラスメント等のない職場づくりを進める。定期的にサービス事故防止研修を実施するとともに、クリーンデスクや良好なコミュニケーションを図り協働力を高めてサービス事故をゼロにする。

3 今年度の取り組み目標とその達成に向けた具体的方策

「リボン晴海」をスローガンとして、大学進学重視の新教育課程の充実とキャリア教育の一層の発展を進める。入試倍率回復の継続と記念すべき30周年に向け、下記の①～⑤を推進する。

- ① 進学重視型の新教育課程の完成を目指す。土曜授業の定着、大学受験に対応した科目・講座の展開、本校独自の「産業社会と人間」「総合的な探究の時間Ⅰ」「人間と社会」「課題研究」「総合的な探究の時間Ⅱ」の3年間を見通したキャリア教育の創造を推進する。
- ② 生徒のためには、前例にとらわれず、スピード感を重視しながら協働的、組織的に課題を解決する。
- ③ 卒業時には入学時以上の学力レベルを保障する教育活動を行い、模試分析会等を通して検証する。
- ④ 国公立・難関・GMARCH・日東駒専ランクの大学進学や公務員就職等、進路実績を一層向上する。
- ⑤ 生徒・保護者から信頼される学校にすることをモットーに、「学校評価アンケート」で懸案の項目は改善する。以上より、中学生からは「入学したい学校」、保護者からは「進学させたい学校」、地域からは「応援したい学校」にする。

(1) 教育活動の目標と方策

【学校経営】

- 1 PDCAマネジメントサイクル、OJT診断基準、執務ガイドライン等を活用して、組織的・効率的な学校運営を推進する。
- 2 総合学科の推進に向けた教育課程の編成を行う際には、STEAM教育、Society5.0、SDGs、インクルーシブ等と関連を検討しつつ、系列の発展と学校設定科目を魅力ある内容にする。
- 3 理数教育重点校、進学指導研究校、海外学校間交流推進校の指定に対して、中心となる分掌を核とし全教職員が組織的に取り組み、実践報告や発表に向けた協力体制を充実する。
- 4 学校グランドデザイン及びスクールミッションの実現を目指して、時代のニーズに合った内容を取り入れ、先進校等を視察し、全教職員が研鑽を積み、一層の教育改善を進める。
- 5 オンライン教育を推進し、教育活動に学習クラウドサービスを効果的に取り入れていく。
- 6 年度当初に各分掌組織目標を定め、中間報告を9月、年度末総括を1月末に行う。
- 7 教職員のライフワークバランスを進めるため、IT技術を活用して生徒・保護者との連絡、諸会議や外部機関との連絡、ICTの活用やオンライン授業の実施等、業務の効率化を図る。また、年10回以上の定時退勤デーを設定し、超過勤務削減を推進する。
- 8 経営企画室において、経営参画ガイドラインとOJTチェックシートを活用して、資質・能力と経営参画意識の向上を図る。
- 9 研究部と教務部を中心として、学力向上及び進路実績向上に向けた課題の整理と、校内研修等を行う。
- 10 英語の4技能を高めるため、全校生徒が英検受験により英語力を判定する。音声・リーディングソフトを活用し、使える英語力を高める。多読の授業等で、洋書貸し出し数を増やす。
- 11 生命尊重の教育及び人権教育を徹底する。いじめ等の問題行動の早期発見・早期対応、体罰や暴力・暴言等の根絶に向け生徒情報を共有する。問題行動発生時には、生徒部主任・管理職への報告・相談体制を整え、高等学校生活指導指針に基づく指導を適正に実施する。
- 12 全教科で教科主任を中心に「確かな学力」の育成、教科の抱える課題の解決等に組織的に取り組む。
- 13 服務事故防止のために、大職員室・各教科職員室のクリーンデスク、個人情報適正な取扱い、進路関係文書や入選関係書類等の点検・確認を徹底する。
- 14 経営企画室と関係教職員が連携し、家庭状況・督促状況の連絡を密に行い、授業料及び諸費用の滞納を組織的に防止する。

【学習指導】

主体的・対話的で深い学びを実践するとともに、生徒の自己実現に向け、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用して課題を解決するための能力を育成する。

- 1 「学力スタンダード」を「応用」レベルに設定し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図り、学力の定着や学びに向かう姿勢を育成することで、保護者や都民の負託に応えられるよう組織的に取り組む。
- 2 学習到達目標を常に一段高く設定し、発問の工夫と学習の振り返りを行う等、主体的・対話的で深い学びと

- なる授業を実践する。授業は公開し全教員の相互授業参観を通して、教科指導・授業技術の改善を推進する。
- 3 視野を広げ、情操を豊かにする読書活動の充実を図り、コミュニケーション能力やプレゼンテーション技能を高める言語活動を推進する。
 - 4 本校の系列を支える科目、特色ある学校設定科目の授業到達度の確認と、さらなる発展的学習や進路実現につながる各種資格・検定や大会（コンクール）に積極的に取り組む。
 - 5 授業時間を厳守する。生徒は、開始前に授業準備をする。
 - 6 課題・小テストの実施、自学習（授業前の自学・放課後・家庭学習）に取り組ませ、主体性を育てながら「学習習慣の定着」を図る。チューター制度を活用し、補習・講習・個別指導の他、自学習の方法等を支援する。
 - 7 オンライン学習を活用し、反転学習等を行うことで自学習習慣の定着による学力向上を図る。
 - 8 年2回の「生徒による授業評価」を基に授業改善に努め、全教員がICTや学習支援クラウドサービス等を活用したわかりやすい授業を展開し、主体的・対話的で深い学びを実践する。
 - 9 大学をはじめとした外部機関との連携を図り「課題研究」及び「総合的な探究の時間」に対する教員の意識と指導力を高める。特に、仮説の立て方、検証方法、指導方法、評価方法について教員研修を実施する。
 - 10 生涯を通じてスポーツに親しむ態度・意識を高め、そのための基礎体力を向上させる授業を展開する。
 - ・体力・運動能力テストにおける体力合計点を毎年1ポイント以上アップさせ、東京都平均以上になるようにする。
 - ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを生かした教育活動を、各教科及び各年次連携の下、地域連携も進めつつ、組織的・計画的に具体化し実践する。

【生活指導】

「生活指導統一基準」に基づき、基本的な生活習慣の確立、「自己責任能力」の育成を図る。

生徒・保護者・地域からの相談や問い合わせには、わかりやすく丁寧に対応する。

- 1 信頼される言葉遣いを心がけ、人権尊重の理念「人権を相互に尊重」を広く定着させる。
- 2 定時の登校や学習時間等のタイムマネジメントスキルを向上させながら、晴海生としての誇りをもたせる。
- 3 日常的に、遅刻防止・身だしなみ・挨拶・貴重品をはじめとした持ち物管理等の指導に加え、「遅刻・身だしなみ週間」を年5回行い、「自己責任能力」の育成を図る。
- 4 いじめやネットトラブル等の生徒の問題行動に対し未然防止、早期発見・早期対応を組織的に行う。
- 5 学校・家庭・地域社会との緊密な連携の下、公共の場や交通機関でのルール・マナーを守れるよう、生徒の健全育成を進める。
- 6 式典や全校集会等の節目の機会では制服の正装着用等を徹底し、けじめをつける態度を育成する。

【進路指導】

進路指導研究校として、組織的な進学指導体制を図る。相談部主導の模試分析会等を各年次2回以上行い、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜それぞれの進学指導力等の向上を図る。

理数教育重点校として、本校の探究学習の核となる課題研究に外部人材による指導を取り入れ、課題研究の成果を希望進路実現に結び付ける取り組みを強化する。

生徒一人一人の進路実現に向けて、1・2年次の三者面談は1回以上、3年次は三者面談を就職や大学・専門学校への出願の前等に2回（8月末・12月末まで）以上行い、保護者・生徒との相互理解を深める。

- 1 3年次担任、1・2年次及び教科の代表、部活動顧問による模試分析会を行い、生徒の受験先・受験形態と学力を把握し相談や進路実現計画に活かす。また、模試は全生徒が受験し、授業の定着を図る定期考査や小テストとの相関を検証することで、生徒の自学習習慣の啓発、教員の授業改善等、学力向上に結び付けていく。
- 2 相談室の資料や入室しやすいレイアウト、キャリアカウンセラーの常駐等を工夫して活用度を高める。
- 3 相談部が主導となり長期休業日中・放課後等に、基礎学力向上、応用力養成を図る講習・補習を開設し希望進路実現を達成させる。
- 4 受験科目の定期考査は共通問題で行い、また記述式問題を取り入れることで、思考力・判断力・表現力等を育成する。
- 5 多様な大学入学者選抜制度を掌握し、受験者が的確な大学選択と受験準備ができるようする。
- 6 外部機関と連携し、大学説明会の実施・模擬授業・課題研究の支援を行い、進路に関わる視野を広げる。
- 7 「産業社会と人間」と「課題研究」の取り組みが将来設計・進路実現につながっていることが理解できるように、授業の在り方や内容を随時見直していく。

- 8 履修相談・進路相談は、教職員全員がキャリアアドバイザーとして取り組み、生徒一人一人を支援し、進路目標を明確にさせる。
- 9 大学受験科目は、定期考査に大学入試問題や記述式問題を取り入れ、定期考査と大学入試問題との乖離を解消し、高大接続改革に的確に対応する。
- 10 トビタテ留学 JAPAN、次世代リーダー育成道場等の制度を活用し、留学を推進する。

【特別活動・部活動】

学校行事や部活動等を通し、学校、学級、所属団体への帰属意識と教育活動への意欲等を育てる。また、生徒一人一人に達成感・成就感を体得させる。

- 1 教員の適切な指導助言等で、生徒の自主・自律・自治力を育て、学校行事等への参画意欲を高める。
- 2 体育的行事と文化的行事は、生徒と共につくり上げる。晴海祭を全教職員による組織的な体制で実施し、授業の発表の場に相応しい高い水準の学校行事とする。
- 3 部活動の活性化を図り、生徒の体力・精神力の向上につなげる。
1 年次生全員部活動加入を徹底し、活動が魅力あるものとなるように、教員が適切な指導力を発揮する。
1 年間に渡ってコンスタントに活動し、達成感・成就感が得られるものとする。
- 4 生徒会・委員会活動の活性化を図るとともに、地域連携・ボランティア活動を推進し、自尊感情や自己有用感を育成する。

【開かれた学校づくり・地域貢献】

学校・地域・家庭との連携を深め、開かれた学校づくり・地域貢献を推進する。

- 1 地域の特性を活かしながら SDGs の視点を取り入れた学校設定の教科「人間と社会」の「奉仕」活動・職場訪問・ボランティア学習、地域主催のボランティア活動や企業主催のインターンシップに参加することで、社会性・公共性を培うとともに、地域から愛され親しまれる学校にする。
- 2 学校活動の理解と協力を得るための年次通信等を各年 6 回以上発行し、学校と家庭の信頼関係を深める。
- 3 保育園、幼稚園、小学校、中学校、児童館及び高齢者施設等との連携活動を強化する。
- 4 課題研究を活用し、総合学科生として自己の進路意識をより強く自覚させ、第一志望に入るための支援を全教員で実施するとともに、関係大学との情報共有をさらに進め、高大連携を深化させる。

【健康づくり】

安全・安心で心身ともに健康的な高校生活を実現する。

- 1 「学校保健委員会」を年 2 回実施する。
- 2 スクールカウンセラーの新入生全員面接の実施や教員向け研修の実施など、スクールカウンセラーとカウンセリング委員会を中心とした生徒の心身の健康管理を、生徒部及び各年次を軸とし組織的に取り組む。
- 3 発達障害等の特別な支援を必要とする生徒に対応するため、特別支援教育コーディネーターの育成・活用を図り、学校全体が連携し円滑な教育活動を推進する。
 - ・特別支援教育コーディネーター及びスクールカウンセラーによる研修を、3 回以上実施する。
 - ・障がいのある生徒に対しての合理的配慮を全教職員及び生徒が行い、共生社会を創造する態度を育成する。
- 4 全校生徒による年 3 回以上の美化デー、1 年次生が 11 月に実施するクリーン作戦や環境美化委員会の活動を通して、地域や学校の環境衛生の向上に努める。
- 5 保健だよりを年 8 回以上発行し、生徒の健康に対する関心を高める。
- 6 食育を学校保健計画との関連を図りながら、全校的な取り組みとして推進する。

【防災教育】

本校の置かれた地域の状況等を十分に踏まえた防災教育を実施し、生徒・教職員の安全管理を徹底するとともに、地域と共に生きる姿勢をもった学校づくりを推進する。

- 1 総務部を中心に地元消防署・消防団・中央区防災課等諸機関と連携し、防災教育を組織的に取り組む。

《数値目標》 () は昨年度の実績

- 1 若手教員の研究授業を含めた相互授業参観 200(165)回以上
- 2 不読者率 1.0(1.15)%以内 蔵書貸し出し冊数：10,000(6312)冊

- 3 週当たりの家庭学習等時間 (分)
- 1年次生1日平日 120分以上 休日 200分以上 全体の70%が達成
 $120 \text{分} \times 5 \text{日} + 200 \text{分} \times 2 \text{日} = 1000 (994) \text{分}$
- 2年次生1日平日 120分以上 休日 200分以上 全体の70%が達成
 $120 \text{分} \times 5 \text{日} + 200 \text{分} \times 2 \text{日} = 1000 (984) \text{分}$
- 3年次生1日平日 120分以上 休日 240分以上 全体の80%が達成
 $120 \text{分} \times 5 \text{日} + 240 \text{分} \times 2 \text{日} = 1080 (1042) \text{分}$
- 4 資格・検定及びコンクール
- 〔語学〕 英語検定2級 50 (23) 名 準2級 150 (113) 名
 〔商業〕 簿記 (全商) 2級以上 : 10 (6) 名 全商ビジネス文書検定2級以上 : 15 (16) 名
 〔情報〕 ITパスポート : 1 (0) 名 〔家庭〕 保育検定2級以上 : 10 (14) 名
 〔芸術〕 全国レベル芸術 (美術・書道・音楽等) 展入賞 : 5 (2) 名
- 5 遅刻回数 : 遅刻者 6 名以下 / 1 日 (12.8 名)
- 6 進路第1・2志望合格達成率 100 (99) % 進路決定率 100 (98) %
- 7 長期休業中 (夏季・冬季) 講習 : 68 講座、延べ 1,300 名 (45 講座、延べ 835 名)
- 8 国公立大学合格者 3 (2) 名 早慶上理大・GMARCH以上の合格者数 30 (20) 名
- 9 晴海祭の来場者数 : 4,000 名 (保護者、中学生のみに公開 600 名)
- 10 1年生部活動加入率 100 (100) % 全校生徒部活動加入率 95 (87) %
- 11 地域でのボランティア活動・連携活動 : 12 回以上 (中央区スポーツの日以外は見合わせ)
- 12 異校種・異年齢交流 : 17 回 (見合わせ)
- 13 会議、研修等
- ・転入者オリエンテーション : 2 日以上 (2 日)
 - ・研究部主催研修会 : 3 回以上 (3 回)
 - ・相談部主催 2 回以上 (総合型選抜・学校推薦型選抜) (2 回)
 - ・教務部主催 1 回以上 (深い学びの授業) (1 回)
 - ・分掌部会及び年次会 : 週 1 回実施 (週 1 回)
 - ・教科会 : 月 1 ~ 2 回実施、会議後は迅速に管理職に報告する。(月 1 回以上)
- 14 一般需要費のセンター契約執行率を 64 (59.5) % 以上にする。

(2) 重点目標と方策

【学校運営】

総合学科の教育理念、本校の教育方針、特色ある教育活動の成果、進路実績等を積極的に広報し、本校を第一志望とする中学生・保護者を増やす。

- 1 東京都公立中学校長会進路対策委員会 志望予定調査 500 人以上 (448 人)
- 2 入学者選抜応募倍率 (推薦選抜) 3.00 倍以上 (2.68 倍)
- 3 入学者選抜応募倍率 (学力検査) 2.00 倍以上 (1.83 倍)

【学習指導・進路指導】

新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら、学力向上及び進路実績向上を図る。

- 1 進路第1・2志望合格達成率 : 100 (99) % ・進路決定率 : 100 (98) %
- 2 測定し易い力を育成する。
 - ・「学力スタンダード」を「応用」レベルに設定するが、「発展」レベルを目指す。
 - ・基礎的、基本的学力定着の徹底及び応用力を育成指導する。
 - ・始業前、放課後、長期休業日中の自主的な学習活動を含む学習習慣の確立に向け、組織的に指導する。
 - ・組織的な補習・講習を実施するとともに、個別指導をさらに推進する。
- 3 自己の特性を深く理解し活用の方法を身に付けるキャリア教育を推進し、測定し難い力を育成する。
 - ・「産業社会と人間」等で進路に対する明確な目的意識を構築する。(将来設計能力・情報活用能力等の育成)
 - ・「科目選択」による学びに対する強い動機付け及び、自由な個人裁量に伴う責任を果たすことでの「自己責任能力」(主体的に学ぶ力・意思決定能力・判断力等)を育成する。
 - ・生徒の学びを支えるための「総合的な探究の時間」「課題研究」に対する教員の指導力を向上させる。(思

考力、判断力、表現力等の育成)

4 高い目的意識をもった進路を実現する。

- ・CC キャリアカウンセラーと、教職員全員がCA キャリアアドバイザーとなり、関係機関と連携しながら全校体制で「相談活動」をする。
- ・相談部を中心に、受験形態〔総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜等〕別の戦略的な取り組みと指導法に関わる校内研修会を開催する。
- ・「課題研究」を活かし、第一志望へ進めるよう大学の指定校を開拓する。

【募集・広報活動】

学校説明会来場者・生徒・保護者等のアンケートを分析し、受検者のニーズ（時代性）に合った募集・広報活動の工夫と改善を図る。

- 1 総務部主導により、中学校・学習塾訪問、出張授業、出張説明会等を教職員全員が3回以上行う。また、生徒も参加する学校見学会・説明会を作り上げ、学校の教育成果を生徒の活躍する姿として表現し、理解と支持を集めていく。生徒には自主性が育まれ、達成感を味わい、晴海生として誇りを実感することになる。
- 2 ホームページは、教育活動の成果等について、タイムリーな掲載を心掛け500回程度更新する。
- 3 受検者目線での学校紹介の映像を配信、本校のイメージが伝わるパンフレット制作・学校説明会等を行う。
- 4 本校の教育活動を幅広く広報するために、中学校年1回・学習塾対象の説明会を年2回以上の実施と年次通信を年6回以上、相談部だよりを年11回以上発行して、生徒の学習活動の紹介や進学情報等の提供を行い、学校理解を深めて頂く。
- 5 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底しつつも、各種説明会、授業公開、体験授業、部活動体験等を従前通り実施する。